

バトル&アドベン チャーズ

斬瑠

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したもので
す。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を
超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

あらすじ

とある春。ある少年が高校生になり、学校に入ろうすると穴があり、異世界に続いて
いた。

異世界についたときに記憶を失つてしまつた。

記憶を取り戻すために主人公は旅をすることとなつた。

序
章

始
まり
の
章

目

次

序章 始まりの章

オレは今日から高校生。高校生活が始まる。

オレは家を出て、電車へ乗り、そして高校へ行つたんだ。校門をくぐり、その後、学校に入ろうとした。

何か、謎の穴があつたんだ。

そして、異世界にきてしまつた。

異世界に来たとき、記憶を失つた。ほとんど全て。

オレの名前も忘れてしまつた……

その洞窟から外に出た時、一人の少女に出会つたんだ……

ここは草原。

広くたくさんの中草が生えている。

空は綺麗なライトブルー。雲も白く綺麗——
黒い雲は無く、穏やかな所だ。

オレは歩いていくと、突然・・・疲れて倒れた。

体力が殆ど残つていなかつたのだ・・・

こうして、オレが次目覚めると・・・

何処か、温かい場所にいた。
「だ、大丈夫ですか？気付きましたか？」
と言う声がした。

ここは・・・何処なんだ。

洗練されている綺麗な部屋。

本も散らからずに綺麗に整頓されている。

あの少女はピンク色の長い髪を下ろしている。

そして目は紫で蒼いドレスを身に纏っている……
見るからに優しそうな少女だ。

「自己紹介をしたほうが良いかな？」

「ど、どうぞ」

「オレは・・・名前を思い出せない。」

「そ、そうですか。わたしは燈火那遊ですの。魔術師で一人旅をしていますっ！」

この女の子は那遊ちゃんと呼ばれる女の子だつた。とつてもかわいくて名前も凄く似合つていた。

「名前を思い出せないなら……何がいいでしようか？ そだ、斬瑠はどうでしようか？」

「ふむ。結構かつこいい。オレに似合つてる名前かもしけないな。那遊さん、ありがとう。これからオレは斬瑠つて名乗る事にするよ」

「じゃあ、斬瑠さん、一緒に近くにある集落へ行こうっ！ ここよりももつと安全かつ、色々な情報を得られるよっ！ 集落まではあなたの倒れてた草原を通らなきやいけないけどっ！」

というわけでオレと那遊は草原へと進んでいった……

その家の外で1匹のスライムは盗み聞きをしていた。そのスライムは名を持つ特別なスライム。

その名はスラツシユ。魔王軍でも有名なスライムであつた。

この草原の支配するオーガー、ツドムへ報告するため、地面に溶け込んだ。溶けて地面に潜ることで一瞬でツドムのいるどこへ行くことができるのである。

「ツドム様、大変です」

「スラツシユ、何を驚いているのだ」

こいつはツドム。この草原を支配しているオーガーだ。

とても臭い足を持つており、装備しているマジック・アイテム天馬テンウマの靴は臭くて普通の人には使い物にならないだろう。

いくら一度に移動できる距離の限界が上がる凄い性能のマジック・アイテムでも……「この草原に2人の人間。そのうち一人は魔術師のような感じでした」

「くつ、もしかしたらこれはやばいな…… セシル・フォルカード、我ら魔王軍の力を見せてこい！」

「はい、わかりました。ツドム様。わたくしが2人の相手へ追撃してきます！」

この女の人はセシル。セシル・フォルカード。青いロングヘアをボニーテールにしており、水色の瞳をしている。

右目は前髪で隠れている。魔王軍のメンバーであり、男が嫌い。また、アイシクル・チエイサーという異名を持つ。